

見分けが附かない位である。

月夜の趣を描かうといふには、餘りに冷いワツシや全體のエフエクトを暗くするのは面白くない。畫面全體が公平に暗ければ、力のない繪となつてしまふのであるから先づインヂアンエローのワツシで初まるが可い。さもなければインヂアン・エローとインヂアンレツドと混じてする。第二にはインヂアンレツトとインヂゴ―或はセピヤとインヂゴ―と少量のクリムゾンレーキを交へる。時にはインヂゴ―の代りにフレンチプリユーを用ゐるも可い。建物の調子はセピヤ、ブラヨンマダー、もしくはパープルマダーとフレンチブリユー或はインヂゴ―を混じて描く。影にはヴァンダイクブラオンとインヂゴ―と少量のレーキとである。或はパープルまたはブラオンマダーとインヂゴ―とでする。草木の緑はブラオンピンクとインヂゴ―とクリムゾンレーキかパープルマダーとで描く。(完)

水 貼 り (その二)

縁を貼る紙は美濃紙が一番よいが、丈夫な紙でさへあれば何でも間に合ふ紙の幅は三四分もあれば澤山である。

文房店にはゴム糊のついた縁貼紙の卷たのを賣つてゐる、旅行の時など一寸よい。

糊は硬い程よい、瓶入の『實用糊』といふのは工合がよい、ヒメ糊ならよほど硬く煮なくてははいけぬ、飯粒でも間に合ふ。

縁張の紙に藥袋紙(茶色の色)を用ゐる人がある、紙の四邊が極まつて、剝がしてからも見よいが、近頃の藥袋紙は紙質が脆くつて時として紙と畫板との繼目が裂けることがある。(完)